名古屋学院大学論集　言語・文化篇　第34巻　第2号　pp. 71–79

〔論文〕

東北方言におけるオノマトペの対人評価的な使用について

川　﨑　めぐみ

名古屋学院大学商学部

要　　旨

東北方言のオノマトペには，対人評価的な使用の例が散見される。そのうち，特に相手へのマイナスの（否定的な）評価を伝える例は，談話資料などには収録されにくく，その使用法については詳細に検討されていない。そこで本稿では，対人評価的な使用例を挙げ，その用法を分類し，方言オノマトペの使用法の地域差を明らかにしていく足掛かりとすることを目指す。評価を表すオノマトペの品詞，オノマトペ以外の評価語が伴われるか否か，直接相手に評価を伝えるか否かという3つの観点を設定し，岩手県盛岡市方言，山形県寒河江市方言の方言集および方言リストの用例を分類した。その結果，特に東北方言における語用論的な特徴として，直接相手に評価を伝える際に東北方言に独特のオノマトペの要素「ラ」の使用やABCB型系統の語形が使用されるといったものが見られた。

キーワード：オノマトペ, 東北方言, 対人評価, 性向語彙

Interpersonal evaluative usages of onomatopoeia in Tohoku dialect

Megumi KAWASAKI

Faculty of Commerce
Nagoya Gakuin University

発行日　2023年3月31日

1. はじめに

オノマトペの特徴といえば，音や動き，状態，感覚・感情等を言語音で写し取る描写性を持つ点であるが，ただ描写をするだけではなく，相手に対しての評価（特にマイナスの評価）を示すためにオノマトペが使用されることがある。例えば，次のような例である。

（1）どごさいっても，ズヘラッと でぎる性分って結局，得だな（盛岡方言／中谷2010, p.19）
（2）ガラガラて おもしゃい人だずね。（山形県寒河江市方言／川越2012, p.240）
（3）おはようござりす
もさらくさらのぬづようび （『Twitter』仙台弁こけし@jugokeshi, 2022年11月13日）

（1）「ズヘラッと」は厚かましいさま，（2）「ガラガラ」は遠慮なく気性がさっぱりしている様子,（3）「もさらくさら」は動きが鈍重である（怠け者らしい）様子を表す。（1）（2）は相手,（3）は自分自身について，否定的な（マイナスの）評価をしている例である。

東北地方の方言の辞書や方言集を見ると，このような相手への評価を含んだオノマトペの用例がよく見られる。しかしながら，とりわけマイナスの評価を含んだオノマトペは，雑談（うわさ話）や子供への叱責，家族への文句として出てくることが多いため，調査や談話資料等ではなかなか見られないものである。その結果，オノマトペの対人評価的な使用について，日常生活で接することは頻繁であるにもかかわらず，対人評価を含んだ方言のオノマトペについて詳細に記述されたものは見当たらない。

そもそもオノマトペの研究においては,その語形や意味などに関する研究が中心となっており，使用法やオノマトペに関する発想法についての研究は近年始められたばかりである。例えば，関西方言においては，田原（2001）の例によると，「ガー笑てますけど」「ガー食べとんねん」のように,様々な動詞と結びついて勢いを表している。一方,東北方言においては「天気グラリ変わった」「ボット言われても困る」のように，物事の変化や生起など「急に」「いきなり」の意味でオノマトペが使用される例が見られる。このようにオノマトペが使用される文脈や場面には地域差がある。

この地域差が見られる可能性のある用法の1つに，本稿で取り上げるオノマトペの対人評価的な使用がある。例えば，筆者の出身地である山形県では，「足キロキロてやれ」（ほら，足が赤くなってる）という発話がされることがある。「キロキロ」というオノマトペは，寒さなどで足が赤く腫れあがった様子を表すものであり，一般的にその状態にある人を否定的に評価するときに用いられる。評価だけでなく，「キロキロ」と示すだけで，その状態の改善を含むことがあり，語用論的な意味として行動指示（状況の改善）までを含んでいることさえある。共通語のオノマトペにおいて，オノマトペを示すだけで相手の行動への口出しをする例は，あまり見られないと思われる。

本稿では，例として対人的な評価を含む東北方言のオノマトペを取り上げ，東北方言の対人評

価的なオノマトペの特徴を示すことで，方言オノマトペの使用法に関する研究の端緒となることを目指す。対人評価的なオノマトペの使用の特徴については，オノマトペ自体が評価の意味を持つ場合，どのような品詞として現れるか，名詞かそれ以外かに分けて考える。また，評価を表す際にオノマトペとともに用いられる語にどのようなものがあるか，さらにオノマトペが表す語用論的な意味といった観点から，いくつかのパターンに分類していく。なお，東北地方の方言オノマトペの用例として，中谷（2010）から岩手県盛岡市方言，川越（2012）から山形県寒河江市方言のものを示す。

2. オノマトペ自体が評価の意味を持つ語の品詞

まず, オノマトペ自体が評価性を持った使われ方をしている語について, その実際の使われ方, 主に品詞を見ていく。オノマトペそのものが意味として評価性を持っているものであり，品詞として副詞,「する」が後接してスル動詞化したもの，形容詞的な要素が後接しているもの，名詞として存在しているものが見られる。名詞とそれ以外のもので分けて見ていく。

2.1　オノマトペを含んだ名詞の性向語彙

人の性格や行動の傾向を表す言葉である性向語彙に，オノマトペが含まれるものがある。性向語彙は，人の性格を表す際に否定的な評価も伴う，評価性を持つ語彙である。次の（4)〜(6）のような例がある。

（4）あいづヘラヘラだがら 気ぃつけろな。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.252）
（5）帯も締めねビドサガリ（山形県寒河江市方言／川越2012,p.251）
（6）あれぁ，子供の時がらの ドヘラポンだ（盛岡方言／中谷2010,p.31）

(4)「ヘラヘラ」はおしゃべりなこと, (5) はだらしのないこと, (6) はまぬけなことを表す。(4) の「ヘラヘラ」については,「ヘラヘラてしゃべる」のように，時に「テ」を伴って副詞としても用いられる。類似のものとして,『日本方言大辞典』によると, 山形県方言においては「ヘラ」「ヘラリ」, 岩手県方言には「ヘラウリ」といった語形も存在する。(5) は「着たもの（着ているもの）ビドビドてなってだ」のように，着こなしがだらしないことを表す副詞タイプのオノマトペと同語基である。『日本国語大辞典』によると,「びとびと」は静岡県にも見られる語のようである。(6) の「ドヘラポン」は「ドヘ」という語が岩手県にあり，こちらもまぬけなことを表す。オノマトペかどうかは判断の難しいところであるが,『日本国語大辞典』から，岩手県の方言として土地のくぼんでいるさまを表す語として「ドヘッ」「ドヘン」が存在し, こちらは語型のバリエーションからオノマトペであると考えられる。

このように，オノマトペを含んだ名詞の性向語彙が見られるが，そこまで多くあるわけではない。方言研究ゼミナールの『方言資料叢刊』第3巻に収録されている山形県の性向語彙にはオノ

マトペが含まれたものはなく，青森県のものには「のろま」の意味の「トロケ」が含まれるだけである。『山形県方言辞典』をもとにオノマトペを収集している川越（2012）にも，上に挙げた以外には,「ゲラ」（笑い上戸),「ヅングリ」「デゴスケ」「ドダ」（太っている人),「ビクタレ」（弱虫やだらしない人),「ペロスケ」(他者の好意を意にかけない人),「ムッキラボー」(不愛想な人),「メロヅ」（節操のない人),「デレスケ」（しまりのない人）が挙がるくらいである。また，他の地域との比較で，オノマトペを含んだ性向語彙が東北地方に多いかどうかは，今後調査を進める必要がある。

2.2　副詞・スル動詞化・形容詞的語尾があるもの

次に，オノマトペ自体が評価性を帯びているもので，副詞やスル動詞，あるいは形容動詞的な語尾を伴った形になっているものを見ていく。(8)〜(14）のような例が見られる。

（8）気性のサックリすた人だ（盛岡方言／中谷2010,p.15）
（9）なんたら，スタクタねぇ 男だごど（盛岡方言／中谷2010,p.19）だらしない
（10）どごが ノヘノヘどすたどご ある人だ（盛岡方言／中谷2010,p.35）無頓着・図々しい
（11）生まれぁえぇのぬ，育づ悪くて ノペッとすてる（盛岡方言／中谷2010,p.35）無作法
（12）馬鹿ではねぇよだども，どごが ノロッと すてるな（盛岡方言／中谷2010,p.37）鈍感
（13）うちのやろこ メロッとしてやー。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.255）節操なし
（14）いっつ聞いでも，マヤマヤづぅ 話ぶりだな（盛岡方言／中谷2010,p.45）

(8)（9）については直接後ろに「スル」が付いており,（10）（11）（12）（13）も「ど」や「と」を介しているものの「スル」を伴ったもので,スル動詞化しているものである。(8)(9)(10)は「人」「男」といった人間を表す語や「どご（ところ)」といった抽象的な名詞が伴われる一方,（11）（12）（13）は「する」で終わっている。（14）は岩手県方言で見られる「ズ（ヅ)」という要素であり,「という」から変化した形容詞的活用をする要素である。

これらはオノマトペ自体が評価性を帯びており，ほかに評価性を持つ語を伴わなくても，主にマイナスの評価を示すことができる。そのため,「スル」「ズ」などの形式的要素が付くだけで評価を表す語として使用することができる。東北方言のオノマトペは具体的な意味を有しており，文脈がなくとも意味が決まっているものが比較的多い。他地域の人が「メロッとして」と言われても意味はわからないだろう。一方,3節に示すものは文脈から評価性が読み取れるものである。

3.　評価を表す一般語や文脈が伴われるか否か

3.1　直接的に評価を表す語を伴うもの

「めんこい」「おかしい」「うるさい」などの,相手への評価を直接表現する主に形容詞（以後,「評価語」と呼ぶ）を伴っており，オノマトペはどのように「めんこい」のかなどの詳細を示してい

る。(15)〜(20) のような例がある。特に (15) の「ニヤニヤ」については, 共起する評価語によって，肯定的な意味と否定的な意味に分かれるものである。「ニヤニヤ」は，共通語では印象の良くない笑い方を表すが, 山形県方言では「にこにこ」に近い肯定的な意味を表すことがある。(15) は「めんこい」という肯定的な意味の評価語が付いているが,「ニヤニヤて きもづわれごと（気持ち悪いこと)」となると，否定的な評価となる。

(15) ニヤニヤて めんこいなれー。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.249)
(16) メロッとして，おかしいやつだ。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.255)
(17) ヤンヤンて やがますい。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.256)
(18) ツタパタツタパタって，小うるせぇな（盛岡方言／中谷2010,p.25)
(19) こまかすごど，ネツネツって 男らすぐねぇやづだ（盛岡方言／中谷2010,p.35)
(20) ズルカルズルカルど, 煮え切らねぇ態度の繰り返すだった（盛岡方言／中谷2010,p.21)

3.2　間接的に評価を表す表現を伴うもの

(21)〜(24) は，評価語となる形容詞が伴われないものであるが，文脈の中の表現から評価性が読み取れるものである。(21) (22) はそれぞれ「行けなくなった」「仕事がはかどらない」といった不都合な状況が，オノマトペで表される人の態度や行動を原因として起こったことを表している。(23) (24) は「〜（する）と駄目だ」「〜（する）ものではない」といった，オノマトペで表される行為がおこなわれないことが望ましいと表現するものである。(25) は「チャカ」という語基が「-メグ」という動詞化要素を伴った動詞であるが,「〜（する）な」という禁止が示されており，(23) (24) のようにオノマトペで表される行為が望ましくないことを示している。直接的ではないものの，このような語は動作をオノマトペで表し，その動作に対して否定的な評価を与えているものである。

(21) あの人，モタラカタラてっがら行がんにぇぐなったどれはー。
(山形県寒河江市方言／川越2012,p.255)
(22) モソラモソラて, とんと仕事はがどらねずね。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.255)
(23) ヘラリすっど駄目だがらな。(山形県寒河江市方言／川越2012,p.252)
(24) 他人の家さ，ズガズガど 上がるもんでぁねぇべ（盛岡方言／中谷2010,p.17)
(25) からせわすがら，チャカメグなぁ！（盛岡方言／中谷2010,p.23)

3.3　評価を表す表現が伴われないもの

これは2.1で示したオノマトペ自体が評価性を帯びているものであり，評価語を伴わずとも否定的な評価を表しているものである。

（26）ないだてグズラモズラグズラモズラてなー。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.242）
（27）ほんて モサラッとしてやー。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.255）
（28）ないだてチャカチャカテユー人だずね。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.246）

（26）（27）は眼前の状態を指摘しているもので，基本的には相手への非難を表す。「ないだて（何だって）」「ほんて（本当に）」といった語を伴うことが多く，否定的な感情を込めて発話されることが多い。（28）は陰口であり，直接相手に伝えるわけではない。

ちなみに，このような否定的な評価を表す語には，（26）（27）のように「ラ」が伴われることが多い。「ラ」は東北地方のオノマトペによく見られるもので，オノマトペが描写する動きや状態の程度を大きく表現する。主観的に言えば，大袈裟に表現する要素である。よって，それほどひどくないと反論する際には，（26）であれば「そだいグズグズなしてねがらな（そんなにぐずぐずなんかしていないからね）」，（27）であれば「ほだいモサッとしてねず（そんなにもさっとしていないよ）」のように，「ラ」が用いられないほうが自然に感じられる。指摘や文句を伝える際は過剰に伝えたいが，反論する際は過少にしたいという気持ちがあるためと考えられる。

4. 評価を直接相手に伝えるか否か

ここまで評価を含む語の品詞的な使用法，伴われる語や文脈に関する使用法について見てきたが，4節では，オノマトペを含んだ発話によって評価を相手に伝えるか否かという視点から使用法を分け，それぞれオノマトペが何を伝えようとしているのか，オノマトペを使用する効果や目的について考えていきたい。

4.1 評価を相手に伝えないもの

まず，評価する相手が眼前におらず，相手に評価が直接には伝わらない例を見ていく。（29）～（33）のようなものである。

（29）あんまる肥って，デックラシャックラってら（盛岡方言／中谷2010, p.29）
（30）太っちょの村長さんは，デックラデックラど 演壇さ上がりあんすた
（盛岡方言／中谷2010,p.29）
（31）あの人ぁ，中気あだって，ビクタラビクタラってら（盛岡方言／中谷2010,p.41）
（32）ソコソコど 逃げでった（盛岡方言／中谷2010,p.21）
（33）あれぁ，一生 ノヘラノヘラど 過ごすんだべな（盛岡方言／中谷2010,p.35）のんき

いずれもオノマトペそれ自体から，あるいは使用されている文脈・場面から，オノマトペで表される動作や状態が望ましくないことが読み取れる。相手に直接伝えるわけではなく，第三者にどのような動きや様子であったかを伝えるものである。これらは動作がどのようなものかを示す

もので，描写性が高いオノマトペが使用されうるものと考えられる。評価的には望ましくないという否定的なものであるが，その動きや様態がどのようなものであるかを，オノマトペによって具体的に表現することで，伝達する相手にも評価を共有することができると考えられる。

4.2　評価を相手に直接伝えるもの

次の（34）～（38）は，オノマトペで表現される動作・状況が，目の前の相手のものであるという点で特徴的である。目の前の相手の動作・状況を描写することで望ましくないことを指摘しており，「～するな」といった禁止の表現などを用い，オノマトペで表される動作・状況を改善することを要求している。（36）～（38）のようにABCB系に変化させるなどして，眼前の状況の描写に大袈裟なことを表すオノマトペの型が用いられる。ABCB系の語は，通常のオノマトペよりもさらに特徴的な形となっており，表現としてより目立つ傾向がある。（36）～（38）のように8拍という長い形になるものも多く見られ，さらに大袈裟さが表現されていると考えられる。

（34）いつまでもグズグズてるな。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.242）
（35）そんたぬ シェッカシェッカさねで，少すおづづげ（盛岡方言／中谷2010,p.17）
（36）相変わらず ズラクラズラクラすて，はきっとすねがっけ（盛岡方言／中谷2010,p.21）
（37）ズレカルズレカルど 言い訳ばがる 何年すてる気だ！（盛岡方言／中谷2010,p.21）
（38）いっつまでも，そんたなごどぉ ネツクツネツクツ すてねぇんだ
（盛岡方言／中谷2010,p.35）

3.3節でも挙げた（26）（27）については，眼前の相手の動作•状態を描写するものではあるが，禁止や指示•命令といった相手に対する改善要求を直接伝えているわけではない。しかし，「ラ」を入れて程度性を大きくし，さらに（26）に至っては「グズラモズラ」（はっきりしない態度あるいはいつまでも文句を言っているという意味）という6拍の語をさらに繰り返すことで12拍とし，オノマトペを目立たせる表現としている。このような場合，発話者が相手の動作・状態を望ましいとは思っていない，さらには不満に思っているということを伝えている。オノマトペを使用して相手の動作・状態を否定的に表現することで，直接指示はしていないものの，改善を求めていることがわかる。個人的な経験ではあるが，家族間で文句を言う場合に使用されることが多いように思われる。直接言わなくてもわかるだろうという関係での使用である。

（26）ないだてグズラモズラグズラモズラてなー。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.242）
（27）ほんて モサラッとしてやー。（山形県寒河江市方言／川越2012,p.255）

続いて，（39）～（42）については相手に直接伝えるものであるが，目の前の状況を描写するというよりも，一段階，概念化した語であるようにも感じられる。概念化しているかどうかは程度の問題ではあるが，描写して相手に気付かせるというよりも，相手の動作が否定的な評価をされ

るべき動作・状態に当てはまるということを伝達しているものであると考えられる。特に（42）の「-メグ」は北東北地方のオノマトペに見られる動詞化要素であり，形からもより概念的なものになっていることがわかる。

（39）ズレッとするたって，きりあるべぇ（盛岡方言／中谷2010,p.21）
（40）自分の責任なのぬ，よぐも ツレッと すてるもんだ（盛岡方言／中谷2010,p.27）
（41）なんぬも，悪ぅごどすてねんだがら，ビクシャクするな（盛岡方言／中谷2010,p.39）
（42）そんたぬ ビリメグごど ねがべ（盛岡方言／中谷2010,p.41）

最後に，（43）（44）に関してであるが，ここまでの例とは異なり，望ましい状態を示して，そうするように促している。「ハッキ」のように慣習化したオノマトペらしくない語が使用され，描写ではなく，相手と共有される望ましい状態の概念を示している。共通語でも「しっかりしなさい」「はきはき話しなさい」など，望ましい動作・状態をオノマトペで表すことがあるが，それと同じ使用法である。

（43）男だら，もっと ハッキど せじゃ（盛岡方言／中谷2010,p.37）
（44）皆待ってるんだがら，ヒラカラど せぇ（盛岡方言／中谷2010,p.41）

このように直接相手に評価を伝える場合に，オノマトペが使用される意図が，描写することでの指摘か，望ましい／望ましくない動作・状態であるという意味を伝える使用かに分かれる。特に眼前の相手の動作を描写して改善を促す，または不満を伝える使用法について，東北方言の特徴が見られそうである。

5. 東北方言のオノマトペが評価性を含むことについて

小林（2018）では，東北方言のオノマトペについて，「個別具体的な意味を持つ形式が豊富に存在する」（p.25）としている。一方で，「言語化の度合いが弱く，抽象度が低い状態」，「その分，描写性に優れ，現実の再現性が高い」とも述べている（p.24）。確かに，西日本の方言に比べると描写性は高いが，この対人評価を含むオノマトペについては，発話者が過剰または過少に伝えたいという意識が働くことで，それが語形や使用法に影響を与えてもいるようである。個別具体的な意味を持つことに，その評価的な意味の側面も組み込まれることで，（3）の「もさらくさらのぬづようび」という表現も成立する。「もさらくさら」には怠け者であるといった評価的な意味があり，これを自分自身に使用することで，自嘲的で面白みのある表現となり，これが「もさらくさら」を知る話者の共感を呼ぶことにもつながる。

オノマトペが対人評価的な意味合いを持つときの使用法について，本稿では，オノマトペの品詞，共起する語や使用される文脈，評価を相手に伝えるかどうかで分けた場合のオノマトペの語

用論的な効果について考察を行った。本稿段階では分類の段階にとどまるが，今後はさらに地域的な使用法の差異があるのかどうかを検討する必要がある。また，オノマトペが使用される場面や使用法には，この対人評価的なオノマトペ以外にも偏りがあるように思われるため，それらの使用法の整理と地域差を明らかにすることが必要である。

【引用文献】

川越めぐみ（2012）『東北方言オノマトペの形態と意味』東北大学博士学位論文
小林隆（2018）「オノマトペの機能の東西差―言語的発想法の視点から」小林隆編『感性の方言学』ひつじ書房
佐藤亮一・篠崎晃一（1993）「山形県東田川郡三川町方言の比喩語について」『方言資料叢刊3　方言の比喩語』方言研究ゼミナール
中谷眞也編著（2010）『盛岡の擬容語（擬態語・擬音語）辞典』自費出版
田原広史（2001）「ピャッとちぎってシャッと渡す―関西弁のオノマトペ」『月刊言語』30（9），pp.24–25
徳川宗賢監修（1989）『日本方言大辞典』小学館（ジャパンナレッジ版）
日本国語大辞典第二版編集委員会編（2003）『日本国語大辞典 第二版』小学館（ジャパンナレッジ版）
渡邉修平（1993）「青森県西津軽郡深浦町大字深浦浜町方言の比喩語について」『方言資料叢刊3　方言の比喩語』方言研究ゼミナール